

食品安全情報（微生物） No.18 / 2026（2026.09.02）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

(<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>)

目次

【[米国疾病予防管理センター（US CDC）](#)】

1. アルファルファスプラウトに関連して複数州にわたり発生している大腸菌（O26:H11、O103:H25 および O168:H8）およびサルモネラ（*Salmonella Agona*）感染アウトブレイク（2026 年 8 月 24 日付更新情報、21 日付初発情報）
2. アイスバーグレットスに関連して複数州にわたり発生しているサイクロスポラ感染アウトブレイク（2026 年 8 月 20 日、13 日付更新情報）
3. ハラペーニョに関連して複数州にわたり発生しているサルモネラ（*Salmonella Javiana*）感染アウトブレイク（2026 年 8 月 19 日、13 日付更新情報）

【[欧州疾病予防管理センター（ECDC）](#)】

1. 欧州疾病予防管理センター（ECDC）が欧州連合／欧州経済領域（EU/EEA）規模の感染症サーベイランスに下水サーベイランス（WBS）を統合するための枠組みを提示

【[欧州委員会健康・食品安全総局（EC DG-SANTE）](#)】

1. 食品および飼料に関する早期警告システム（RASFF : Rapid Alert System for Food and Feed）

【[アイルランド保健サーベイランスセンター（HPSC Ireland）](#)】

1. アイルランドのコミュニティにおいて繰り返し非常に高水準で流行するノロウイルス（2026 年 3 月）

【各国政府機関】

- 米国疾病予防管理センター (US CDC: Centers for Disease Control and Prevention)
<https://www.cdc.gov/>

1. アルファルファスプラウトに関連して複数州にわたり発生している大腸菌 (O26:H11、O103:H25 および O168:H8) およびサルモネラ (*Salmonella* Agona) 感染アウトブレイク (2026 年 8 月 24 日付更新情報、21 日付初発情報)

E. coli and *Salmonella* Outbreak Linked to Alfalfa Sprouts

Aug. 24 & 21, 2026

<https://www.cdc.gov/ecoli/outbreaks/alfalfa-sprouts-08-26/index.html>

<https://www.cdc.gov/ecoli/outbreaks/alfalfa-sprouts-08-26/investigation.html>

(Investigation Update)

<https://www.cdc.gov/ecoli/outbreaks/alfalfa-sprouts-08-26/locations.html> (Locations)

<https://www.cdc.gov/ecoli/outbreaks/alfalfa-sprouts-08-26/timeline.html> (Timeline)

米国疾病予防管理センター (US CDC) は、アルファルファスプラウトに関連して複数州にわたり発生している大腸菌 (O26:H11、O103:H25 および O168:H8) およびサルモネラ (*Salmonella* Agona) 感染アウトブレイクに関する情報を発表した。

2026 年 8 月 24 日付更新情報

米国疾病予防管理センター (US CDC) は、回収対象のアルファルファスプラウト (以下 Web ページ参照) を喫食・販売・提供しないよう注意喚起している。

<https://www.fda.gov/safety/recalls-market-withdrawals-safety-alerts/everything-sprouts-llc-recalls-alfalfa-sprouts-due-potential-e-coli-and-salmonella-risk>

2026 年 8 月 21 日付初発情報

米国疾病予防管理センター (US CDC)、複数州の公衆衛生・食品規制当局および米国食品医薬品局 (US FDA) は、複数州にわたり発生している大腸菌 (O26:H11、O103:H25 および O168:H8) およびサルモネラ (*Salmonella* Agona) 感染アウトブレイクを調査するため様々なデータを収集している。

疫学・追跡調査によるデータは、Everything Sprouts 社が出荷したアルファルファスプラウトが複数の病原体に汚染され、本アウトブレイクの感染源となっている可能性があることを示している。

- 疫学データ

● 報告患者

2026 年 8 月 21 日時点で、大腸菌（O26:H11、O103:H25 および O168:H8）および *S. Agona* アウトブレイク株感染患者が 15 州から計 55 人報告されている（図 1）。患者の発症日は 2026 年 5 月 31 日～8 月 8 日である（図 2）。情報が得られた患者 48 人のうち 4 人（8%）が入院した。死亡者は報告されていない。

注記：一部の患者は複数のアウトブレイク株に感染していた。患者のうち 46 人が大腸菌に感染しており、7 人がサルモネラ、および 2 人がサルモネラと大腸菌の両方に感染していた。

図 1:大腸菌(O26:H11、O103:H25 および O168:H8)およびサルモネラ (*Salmonella Agona*) 感染アウトブレイクの居住州別患者数 (2026 年 8 月 21 日時点の計 55 人)

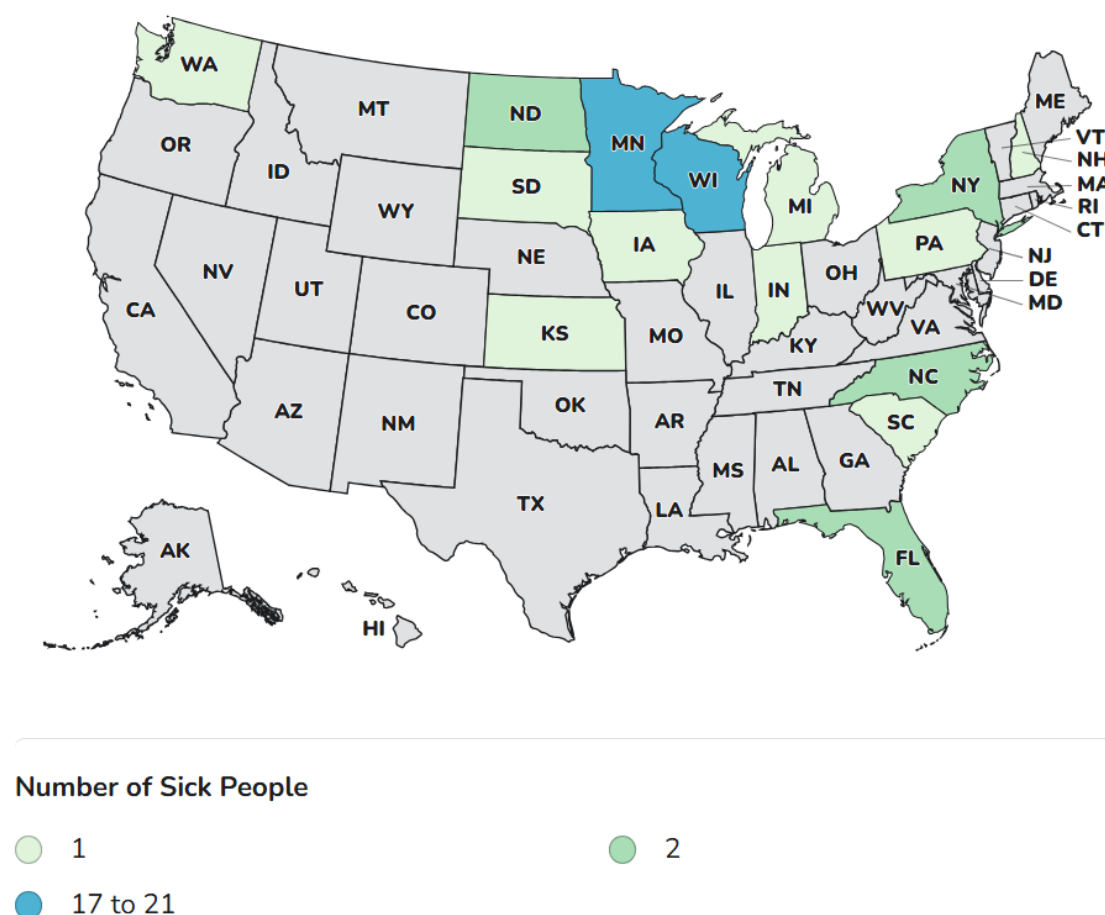
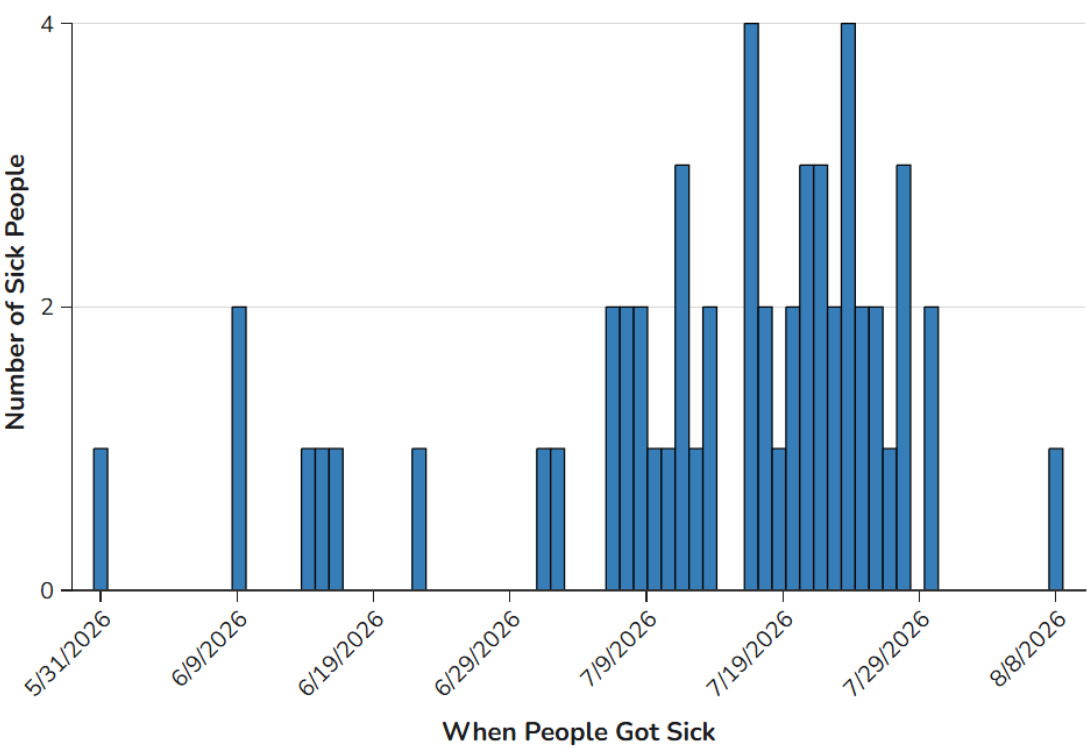


図 2:大腸菌 (O26:H11、O103:H25 および O168:H8) およびサルモネラ (*Salmonella Agona*) 感染アウトブレイクの発症日別患者数 (2026 年 8 月 21 日時点の計 55 人)



(報告患者がアウトブレイクの一部であるかどうかを判定するまでに通常 3～4 週間を要するため、新しい報告患者についてはまだデータに含まれていない可能性がある)

● 人口統計学的データ

公衆衛生当局は、患者の年齢・人種・民族・その他の人口統計学的特徴、および患者が発症前 1 週間に喫食した食品など、患者に関する様々な情報を多数収集している。これらの情報は、アウトブレイク調査で感染源を特定するための手掛かりとなる。

本アウトブレイクの患者について現時点で得られている人口統計学的情報は以下の通りである (n は当該情報が得られた患者の数)。

年齢 (n=55)	年齢範囲：12～94 歳 年齢中央値：34 歳
性別 (n=55)	73%：女性 27%：男性
人種 (n=52)	98%：白人 2%：黒人またはアフリカ系アメリカ人
民族 (n=52)	98%：非ヒスパニック系 2%：ヒスパニック系

● 食品への曝露

各州・地域の公衆衛生当局は、患者が発症前 1 週間に喫食した食品に関する聞き取り調査を行っている。聞き取りが実施された患者 34 人のうち 26 人（76%）がアルファルファスプラウトの喫食を報告した。

この割合は、過去に実施された FoodNet の住民調査（以下 Web ページ参照）において、回答者の 8.7%が調査実施日前 1 週間に何らかのスプラウト（アルファルファ、豆、クローバーなど）を喫食したと報告した結果と比較して有意に高い。この喫食率の差は、本アウトブレイクの患者がアルファルファスプラウトの喫食によって感染したことを示唆している。
<https://www.cdc.gov/foodnet/surveys/population.html>

一部の患者は複数の患者クラスターとして特定された。患者クラスターは、発症前 1 週間に同じレストラン店舗での食事、同じ行事への参加、または同じ食料品店舗での買い物を報告し、かつ同居していない 2 人以上の患者と定義される。患者クラスターの調査により、アウトブレイクの感染源に関して極めて重要な手がかりが得られることがある。相互に関連のない数人の患者が数日間に同じレストラン店舗での食事または同じ小売店舗での買い物をしていた場合、当該レストランまたは小売店舗で汚染食品が提供・販売されていたことが示唆される。

ミネソタ州およびウィスコンシン州で、少なくとも 2 つの患者クラスターが特定された。最も多く報告された食品はアルファルファスプラウトであった。

○ 検査機関での検査および追跡調査によるデータ

本アウトブレイクの公衆衛生調査では、アウトブレイク患者を特定するために PulseNet（食品由来疾患サーベイランスのための分子生物学的サブタイピングネットワーク）のシステムを利用している。CDC の PulseNet 部門は、食品由来疾患の原因菌の DNA フィンガープリントの国内データベースを管理している。原因菌の分離株には全ゲノムシーケンシング (WGS) 法により DNA フィンガープリンティングが行われる。WGS 解析により、本アウトブレイクの患者由来検体から分離された複数の大腸菌株およびサルモネラ株が、それぞれ遺伝学的に近縁であることが示された。この結果は、本アウトブレイクの患者が同じ食品により感染したことを示唆している。

WGS 解析の結果、患者由来 9 検体から分離されたサルモネラ株について、ホスホマイシン、ストレプトマイシン、スルフィソキサゾールおよびテトラサイクリンのうちの 3 種類以上の抗生物質への耐性が予測された。サルモネラ症患者のほとんどは抗生物質を使用せずに回復する。また、抗生物質が必要になった場合でも、これらの耐性が大多数の患者の治療に使用される抗生物質の選択に影響を及ぼす可能性は低い。

WGS 解析の結果、患者由来 46 検体から分離された志賀毒素産生性大腸菌 (STEC) 株については抗生物質耐性の存在が予測されなかった。抗生物質耐性に関する詳細情報は、以下

の CDC の全米抗菌剤耐性モニタリングシステム（NARMS）の Web ページから入手可能である。STEC 感染患者の治療に抗生物質の使用は推奨されないことから、以上の結果が治療方針に影響を及ぼすことはない。

<https://www.cdc.gov/narms/index.html>

ミネソタ州およびウィスコンシン州のレストランにおける追跡調査から、Everything Sprouts 社が出荷したアルファルファスプラウトが本アウトブレイクの感染源として特定された。FDA は汚染スプラウトの Everything Sprouts 社以外の供給源および共通する単一の種子供給業者があるかどうかの確認のため、調査を継続している。

○ 公衆衛生上の措置

CDC は、回収対象のアルファルファスプラウトを喫食・販売・提供しないよう注意喚起している。

2. アイスバーグレタスに関連して複数州にわたり発生しているサイクロスポラ感染アウトブレイク（2026 年 8 月 20 日、13 日付更新情報）

Cyclospora Outbreak Linked to Iceberg Lettuce

Aug. 20 & 13, 2026

<https://www.cdc.gov/cyclosporiasis/outbreaks/07-26/index.html>

<https://www.cdc.gov/cyclosporiasis/outbreaks/07-26/investigation.html>（Investigation Update）

<https://www.cdc.gov/cyclosporiasis/outbreaks/07-26/locations.html>（Locations）

<https://www.cdc.gov/cyclosporiasis/outbreaks/07-26/timeline.html>（Timeline）

米国疾病予防管理センター（US CDC）は、アイスバーグレタスに関連して複数州にわたり発生しているサイクロスポラ感染アウトブレイクに関する更新情報を発表した。

2026 年 8 月 20 日付更新情報

疫学・追跡調査によるデータは、Taylor Farms de Mexico 社（Taylor Farms 社のメキシコ中部に拠点を置く加工施設）のアイスバーグレタスがサイクロスポラに汚染され、本アウトブレイクの感染源となったことを示した。回収対象製品は賞味期限を過ぎており、もはや小売店や飲食店での販売・提供は行われていないはずである。

○ 疫学データ

2026 年 8 月 13 日付更新情報以降、各州・地域の保健当局は新たに報告されたサイクロスポラ症患者への聞き取り調査を継続し、米国疾病予防管理センター（US CDC）は当該患者を本アウトブレイクの関連患者として追加した。8 月 20 日時点で本アウトブレイクには、

以前 Taco Bell 店舗での喫食を報告した患者も含め、様々な場所における Taylor Farms de Mexico 社が加工したアイスバーグレタスの提供または購入による曝露を報告した患者が含まれる。これらの患者の大部分は、Taylor Farms de Mexico 社がアイスバーグレタスの自主回収を開始した 2026 年 7 月 17 日より前に発症していた。本アウトブレイクに関連した患者は 8 月 20 日時点で 17 州から計 10,930 人が報告されている（図 1）。

本アウトブレイクに関連した患者の発症日は 2026 年 6 月 14 日～8 月 11 日である（図 2）。全体で少なくとも 454 人が入院し、ミシガン州から死亡者 2 人が報告された。留意すべき点としては、各州の患者数の合計には、発症前に本アウトブレイクに関連した 17 州のいずれかに旅行したが、その州には居住していない患者も含まれている。

図 1: サイクロスポラ感染アウトブレイクの曝露報告州別患者数（2026 年 8 月 20 日時点の計 10,930 人）

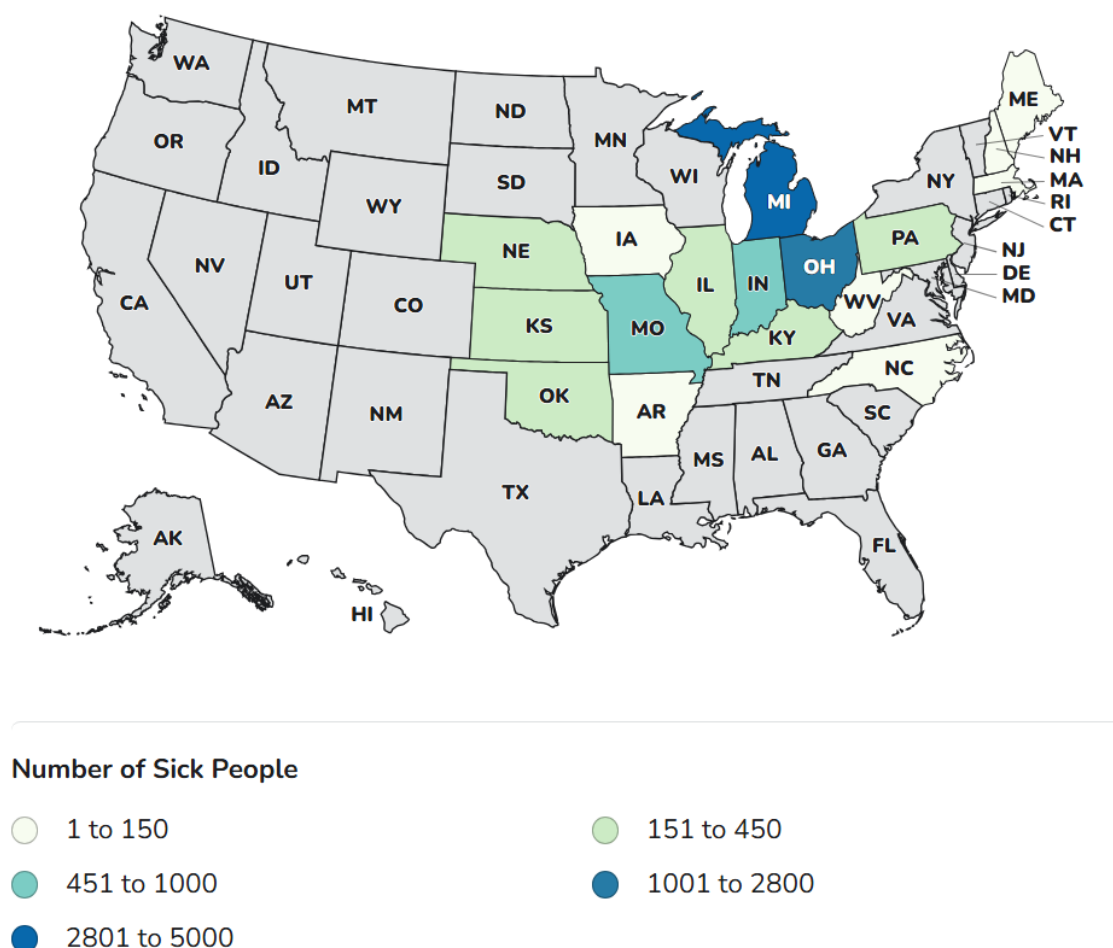
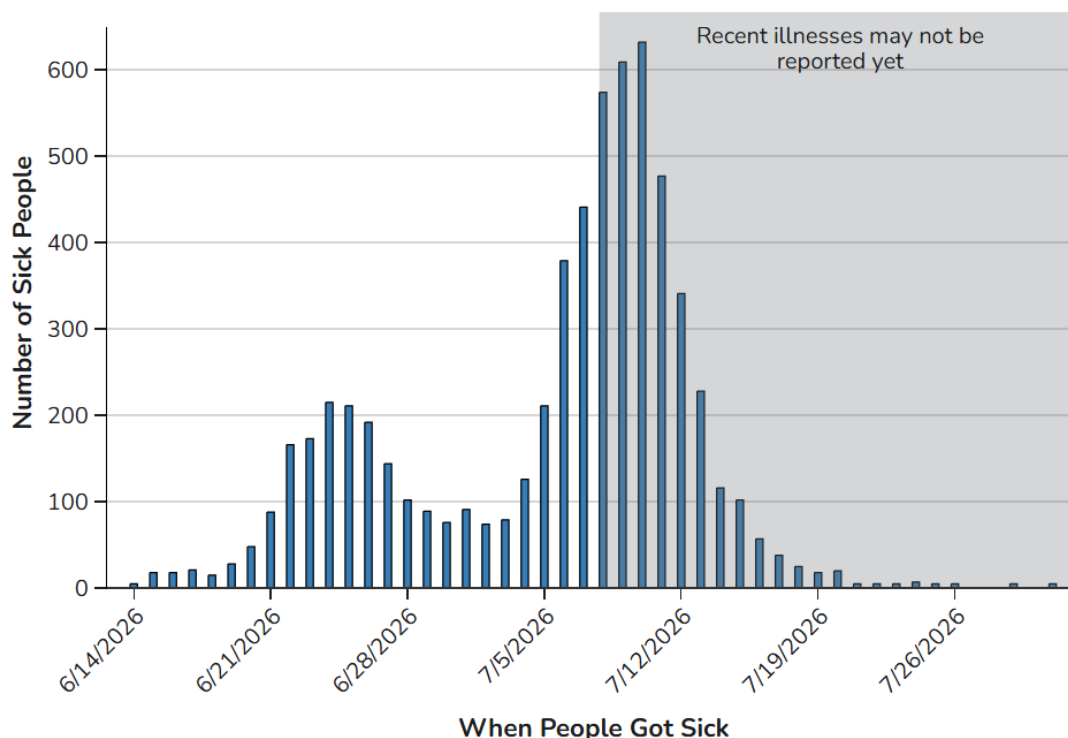


図 2: サイクロスポラ感染アウトブレイクの発症日別患者数 (2026 年 8 月 20 日時点でデータが確認されている 6,264 人)



(報告患者がアウトブレイクの一部であるかどうかを判定するまでに最長で 6 週間を要するため、新しい報告患者についてはまだデータに含まれていない可能性がある)

本アウトブレイクの公衆衛生調査では、患者由来検体から分離されたサイクロスポラの遺伝子型解析を実施している。遺伝子型を特定することにより、本アウトブレイクに含まれる患者の特定が可能となる。サイクロスポラの遺伝子型解析は全ゲノムシーケンシング (WGS) 法とは異なり、特定の遺伝子マーカーを対象として解析し、寄生虫の分類を行う。この方法により患者から感染源までを追跡し、さらなる患者の発生を防止するための新たな対策を導くことが可能となる。本アウトブレイクの患者由来検体に対し実施された遺伝子解析の結果、これらの患者由来のサイクロスポラが遺伝学的に相互に関連していることが示された。この情報は、本アウトブレイクの患者が同じ感染源により感染したことを示す新たなエビデンスとなる。

2026 年 8 月 13 日付更新情報

疫学・追跡調査によるデータは、Taylor Farms de Mexico 社 (Taylor Farms 社のメキシコ中部に拠点を置く加工施設) のアイスバーグレタスがサイクロスポラに汚染され、本アウトブレイクの感染源となったことを示した。回収対象製品は賞味期限を過ぎており、もはや

小売店や飲食店での販売・提供は行われていないはずである。

○ 疫学データ

2026 年 8 月 5 日付更新情報以降、各州・地域の保健当局は新たに報告されたサイクロスポラ症患者への聞き取り調査を継続し、米国疾病予防管理センター（US CDC）は当該患者を本アウトブレイクの関連患者として追加した。8 月 13 日時点で本アウトブレイクには、以前 Taco Bell 店舗での喫食を報告した患者も含め、様々な場所における Taylor Farms de Mexico 社が加工したアイスバーグレタスの提供または購入による曝露を報告した患者が含まれる。これらの患者の大部分は、Taylor Farms de Mexico 社がアイスバーグレタスの自主回収を開始した 2026 年 7 月 17 日より前に発症していた。本アウトブレイクに関連した患者は 8 月 13 日時点で 17 州から計 9,481 人が報告されている。2026 年 8 月 5 日付更新情報以降に、新たに 2 州（メイン、マサチューセッツ）が追加された。

本アウトブレイクに関連した患者の発症日は 2026 年 6 月 14 日～8 月 3 日である 1。全体で少なくとも 398 人が入院し、ミシガン州から死亡者 2 人が報告されている。留意すべき点としては、各州の患者数の合計には、発症前に本アウトブレイクに関連した 17 州のいずれかに旅行したが、その州には居住していない患者も含まれている。

各州の当局が Web ページで公表する患者数は CDC および米国食品医薬品局 (US FDA) が公表する患者数とは異なっている可能性がある。これは各州公表の患者数には疑い患者が含まれており、また Web ページの更新頻度が各州で異なるためである。CDC および FDA は検査機関で確定された患者数のみを報告している。

（食品安全情報（微生物）No.17/2026（2026.08.19）、No.16/2026（2026.08.05）、No.15/2026（2026.07.22）US CDC 記事参照）

3. ハラペーニョに関連して複数州にわたり発生しているサルモネラ (*Salmonella Javiana*) 感染アウトブレイク（2026 年 8 月 19 日、13 日付更新情報）

Salmonella Outbreak Linked to Jalapeños

Aug. 19 & 13, 2026

<https://www.cdc.gov/salmonella/outbreaks/javiana-08-26/index.html>

<https://www.cdc.gov/salmonella/outbreaks/javiana-08-26/investigation.html>

(Investigation Update)

<https://www.cdc.gov/salmonella/outbreaks/javiana-08-26/locations.html> (Locations)

<https://www.cdc.gov/salmonella/outbreaks/javiana-08-26/timeline.html> (Timeline)

米国疾病予防管理センター（US CDC）は、ハラペーニョ（唐辛子の一種）に関連して複数州にわたり発生しているサルモネラ (*Salmonella Javiana*) 感染アウトブレイクに関す

る更新情報を発表した。

2026 年 8 月 19 日付更新情報

米国疾病予防管理センター（US CDC）、複数州の公衆衛生・食品規制当局および米国食品医薬品局（US FDA）は、複数州にわたり発生しているサルモネラ（*Salmonella Javiana*）感染アウトブレイクを調査するため、様々なデータを収集している。

疫学・追跡調査によるデータは、メキシコ Sinaloa 州で生産され Coast Citrus Distributors 社が出荷したハラペーニョ（唐辛子の一種）が *S. Javiana* に汚染されている可能性があり、本アウトブレイクの感染源となっていることを示している。

○ 疫学データ

2026 年 8 月 19 日時点で、*S. Javiana* アウトブレイク株感染患者が 32 州から計 431 人報告されている（図 1）。患者の発症日は 2026 年 6 月 19 日～8 月 2 日である（図 2）。情報が得られた患者 376 人のうち 57 人（15%）が入院した。死亡者は報告されていない。

図 1：サルモネラ（*Salmonella Javiana*）感染アウトブレイクの居住州別患者数（2026 年 8 月 19 日時点の計 431 人）

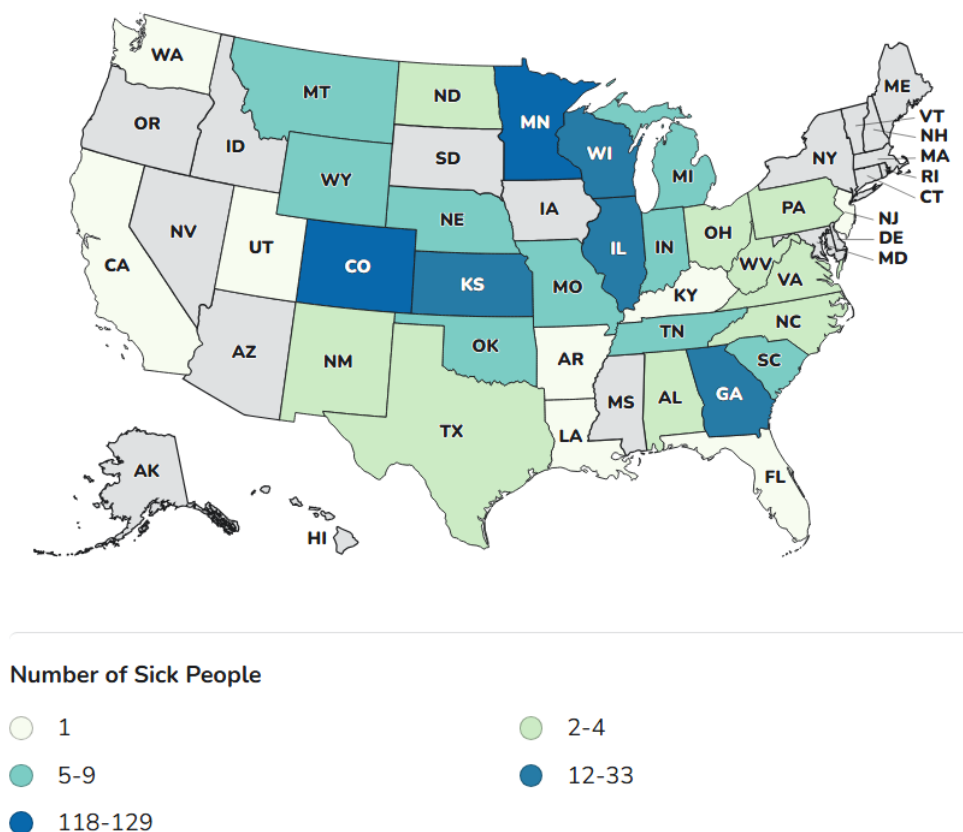
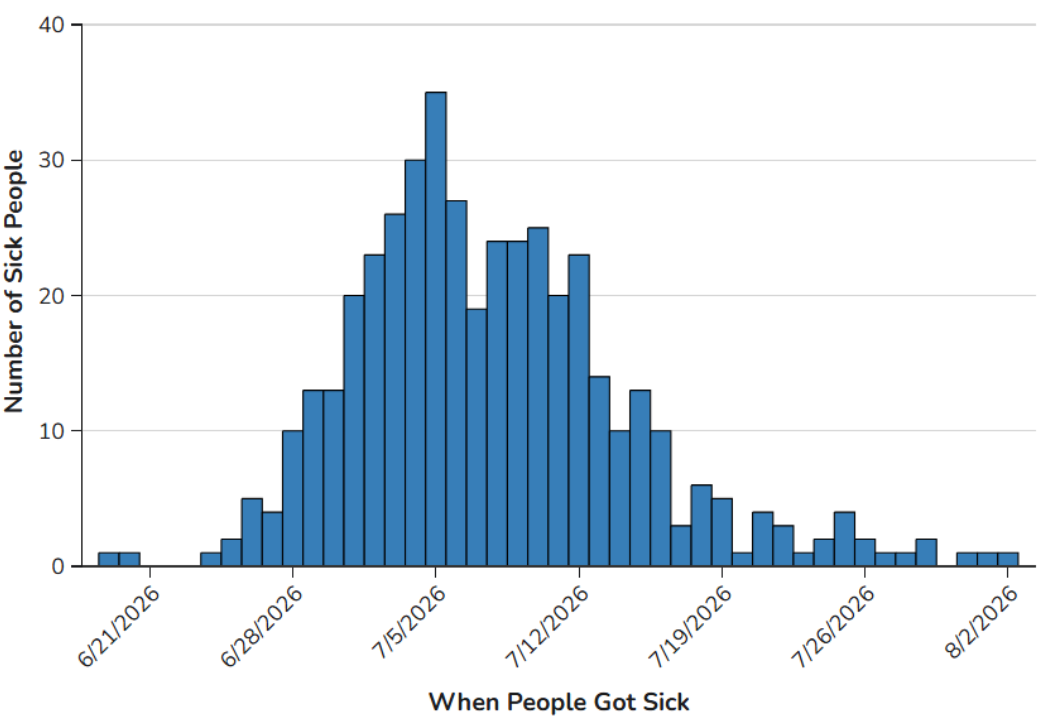


図 2：サルモネラ（*Salmonella Javiana*）感染アウトブレイクの発症日別患者数（2026 年 8 月 19 日時点の計 431 人）



● 人口統計学的データ

公衆衛生当局は、患者の年齢・人種・民族・その他の人口統計学的特徴、および患者が発症前 1 週間に喫食した食品など、患者に関する様々な情報を多数収集している。これらの情報は、アウトブレイク調査で感染源を特定するための手掛かりとなる。

本アウトブレイクの患者について現時点で得られている人口統計学的情報は以下の通りである（n は当該情報が得られた患者の数）。

年齢（n=431）	年齢範囲：1 歳未満～85 歳 年齢中央値：30 歳
性別（n=417）	62%：女性 38%：男性
人種（n=250）	83%：白人 15%：アフリカ系アメリカ人または黒人 1%：アメリカ先住民またはアラスカ先住民 1%未満：ハワイ先住民またはその他の太平洋諸島の住民 1%未満：複数の人種

民族 (n=250)	94%：非ヒスパニック系 6%：ヒスパニック系
------------	----------------------------

● 食品への曝露

各州・地域の公衆衛生当局は、患者が発症前 1 週間に喫食した食品に関する聞き取り調査を行っている。聞き取りが実施された患者 224 人のうち 203 人 (91%) が、Chipotle Mexican Grill 社、QDOBA 社などのメキシコ料理レストランでの喫食を報告し、喫食日は 2026 年 6 月 14 日～7 月 16 日であった。

多数の患者が複数の患者クラスターとして特定された。患者クラスターは、発症前 1 週間に同じレストラン店舗での食事、同じ行事への参加、または同じ食料品店舗での買い物を報告し、かつ同居していない 2 人以上の患者と定義される。患者クラスターの調査により、アウトブレイクの感染源に関して極めて重要な手がかりが得られることがある。相互に関連のない数人の患者が数日間に同じレストラン店舗での食事または同じ小売店舗での買い物をしていた場合、当該レストランまたは小売店舗で汚染食品が提供・販売されていたことが示唆される。

本アウトブレイクでは 8 州の Chipotle Mexican Grill 社および QDOBA 社の店舗で、計 28 の患者クラスターが特定された。報告された原材料で共通していたのはハラペーニョ、レッドオニオン、シラントロ（コリアンダー）およびアボカドであった。

○ 検査機関での検査および追跡調査によるデータ

本アウトブレイクの公衆衛生調査では、アウトブレイク患者を特定するために PulseNet（食品由来疾患サーベイランスのための分子生物学的サブタイピングネットワーク）のシステムを利用している。CDC の PulseNet 部門は、食品由来疾患の原因菌の DNA フィンガープリントの国内データベースを管理している。原因菌の分離株には全ゲノムシーケンシング (WGS) 法により DNA フィンガープリンティングが行われる。WGS 解析により、本アウトブレイクの患者由来検体から分離されたサルモネラ株が遺伝学的に相互に近縁であることが示された。この結果は、本アウトブレイクの患者が同じ食品により感染したことを示唆している。

WGS 解析の結果、患者由来 428 検体から分離されたサルモネラ株については抗菌剤耐性の存在が予測されなかった。患者由来 3 検体から分離されたサルモネラ株については、アモキシシリン／クラブラン酸、アンピシリン、アジスロマイシン、セフトリアキソン、セフォキシチン、セフトチオフル、ストレプトマイシン、スルフイキサゾール、トリメトプリム／スルファメトキサゾールのうちの 1 種類以上の抗生物質への耐性が予測された。これらの検体由来株の 1 つはシプロフロキサシンへの非感受性 (NSC) が予測された。

サルモネラ症患者のほとんどは抗生物質を使用せずに回復する。しかし、抗生物質が必要になった場合、これらの薬剤耐性を持つサルモネラへの感染患者は、一般的に推奨される抗

生物質による治療が困難になる場合があり、別の抗生物質の選択が必要になる可能性がある。抗生物質耐性に関する詳細情報は、以下の CDC の全米抗菌剤耐性モニタリングシステム（NARMS）の Web ページから入手可能である。

<https://www.cdc.gov/narms/index.html>

この調査の一環として、FDA は患者が調査対象期間内に喫食したと報告した場所にもとづいて追跡調査を実施した。その結果、Coast Citrus Distributors 社にハラペーニョを供給したメキシコ Sinaloa 州の 1 栽培業者が本アウトブレイクにおける可能性がある感染源として特定された。

○ 公衆衛生上の措置

Chipotle Mexican Grill 社および QDOBA 社は、アウトブレイクに関する通知を受けた後、当該ハラペーニョの提供を停止した。これら 2 社のチェーン店が当該製品を各店舗から撤去したため、CDC および FDA は、現時点では消費者に対して、これらの店舗による本アウトブレイクに関連した危険性があるとは考えていない。Coast Citrus Distributors 社は本アウトブレイクに関連したハラペーニョの回収を開始した。当該企業はもはや共通する栽培業者 1 社からは製品を輸入していない。

初発の回収通知以降、回収対象のハラペーニョを含む製品に対する追加の回収通知が発表された。詳細情報は FDA の通知または FSIS の回収情報から確認可能である（以下の各 Web ページ参照）。

<https://www.fda.gov/food/outbreaks-foodborne-illness/outbreak-investigation-salmonella-jalapeno-august-2026>（FDA のページ）

<https://www.fsis.usda.gov/recalls-alerts/fsis-issues-public-health-alert-various-meat-and-poultry-products-containing-fda-0>（FSIS のページ）

2026 年 8 月 13 日付更新情報

○ 公衆衛生上の措置

2026 年 8 月 12 日、Whole Foods Market 社はハラペーニョを含む製品の回収を開始した。（以下 Web ページ参照）。米国疾病予防管理センター（US CDC）は回収対象のハラペーニョを喫食・販売・提供しないよう注意喚起している。

<https://www.fda.gov/safety/recalls-market-withdrawals-safety-alerts/whole-foods-market-announces-recall-select-salsas-guacamole-pico-de-gallo-and-prepared-foods>

（食品安全情報（微生物）No.17 / 2026（2026.08.19）US CDC 記事参照）

- 欧州疾病予防管理センター（ECDC: European Centre for Disease Prevention and Control）

<https://www.ecdc.europa.eu/en>

欧州疾病予防管理センター（ECDC）が欧州連合／欧州経済領域（EU/EEA）規模の感染症サーベイランスに下水サーベイランス（WBS）を統合するための枠組みを提示

ECDC framework to guide the integration of wastewater-based surveillance into infectious disease surveillance at the EU/EEA level

10 December 2025

<https://www.ecdc.europa.eu/sites/default/files/documents/wastewater-based-surveillance-framework.pdf>（報告書 PDF）

<https://www.ecdc.europa.eu/en/publications-data/ecdc-framework-guide-integration-wastewater-based-surveillance-infectious-disease>

欧州疾病予防管理センター（ECDC）が提案するこの枠組みは、欧州連合／欧州経済領域（EU/EEA）規模の感染症サーベイランスおよび公衆衛生に関する政策決定に、下水サーベイランス（WBS : wastewater-based surveillance）を統合するための指針となるものである。この枠組みでは ECDC が戦略的かつ科学的にこの統合をどのように主導していくかについて概説されており、さらに加盟各国および EU 機関の政策決定者、各国の公衆衛生関係者および関連分野の各国担当者に対し、必要な情報が提供されている。WBS を推進する欧州の主要な取り組みのほか、感染症サーベイランスに WBS が果たす役割についても、重要な検討事項や課題を含めて記載されている。

WBS は、ポリオウイルス、SARS-CoV-2、インフルエンザウイルスおよびその他の病原体のモニタリングに有用なデータを提供可能である。WBS はまた、リスク評価や公衆衛生上の政策決定に有益な感染症サーベイランスデータを提供できるほか、その他の確立された指標・事例ベースのサーベイランスからデータを補足することが可能である。WBS データは、その他の様々なサーベイランスシステムによって収集されたデータと関連付けて解釈・伝達されるべきである。公衆衛生への WBS システムの利用は慎重な計画が必要であり、また公衆衛生上のニーズに対応すべきである。

2025 年初頭に EU 法が改正されたことにより、EU 加盟各国において複数の目的に対応した下水検体採取が義務付けられた。改正された「Urban Wastewater Treatment Directive（都市排水指令）」では、加盟各国に対し、関係者との連携強化、WBS の対象となる病原体の特定、定期的および公衆衛生上の緊急時における WBS の実施に加え、WBS データの欧州委員会（EC）への報告を義務付けている。この指令はまた、下水中に存在する細菌の抗菌剤耐性のモニタリングを義務付けている。

WBS を感染症サーベイランスに効果的に統合するためには、WBS の電子データへの自動化されたリアルタイムのアクセスが必要となる。2025 年 12 月時点では EU/EEA 規模の WBS データの収集および統合は不十分である。これは新たな指令にはデータ報告義務が含まれており、各国および EU/EEA 規模での継続的な投資が必要となるためである。EU および各国規模の両方においてこれまで人材および運営に対して行われた投資の持続性を確保することは、今後確固たる枠組みを構築するために最重要となる。

EU/EEA 規模の感染症サーベイランスシステムの補完を目的として、WBS の強化および統合を推進するため、ECDC は以下の行動計画を実施する：

- ・ 行動 1: EU/EEA 規模の持続可能で柔軟な WBS システムの開発を支援するため、ECDC の Coordinating Competent Bodies (CCB) 構造の中に WBS ネットワークを構築する。
- ・ 行動 2 : WBS ネットワークに検査支援活動を提供する。
- ・ 行動 3 : 関係者との協議および ECDC の専門家による評価を組み合わせることにより、感染症に関する定期的な WBS の対象となる病原体候補および関連する健康問題を特定する。
- ・ 行動 4 : 新たなサーベイランス基準のための主要な課題および潜在的な需要を考慮しながら、WBS データの感染症サーベイランスデータへの統合に向けて連携および支援を行う。
- ・ 行動 5 : EU/EEA 規模の WBS データにとって最も適切なデータベースと報告方法を検討する。特に WBS のデータ収集および統合に関しては EpiPulse (欧州感染症サーベイランスポータルサイト) の活用を検討する。

(関連記事)

欧州疾病予防管理センター (ECDC)

ECDC の主導で下水サーベイランス (WBS) を欧州規模の感染症サーベイランスへ統合
ECDC to lead the integration of wastewater-based surveillance into infectious disease surveillance at the European level

10 December 2025

<https://www.ecdc.europa.eu/en/news-events/ecdc-lead-integration-wastewater-based-surveillance-infectious-disease-surveillance>

● 欧州委員会健康・食品安全総局 (EC DG-SANTE: Directorate-General for Health and Food Safety)

<https://commission.europa.eu/about/departments-and-executive-agencies/health-and->

[food-safety_en](https://food.ec.europa.eu/food-safety/rasff_en)

食品および飼料に関する早期警告システム (RASFF : Rapid Alert System for Food and Feed)

https://food.ec.europa.eu/food-safety/rasff_en

RASFF Portal Database

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/screen/search>

Notifications list

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/screen/list>

2026 年 8 月 12～24 日の主な通知内容

警報通知 (Alert Notification)

ルーマニア産鶏むね肉のサルモネラ (*S. Enteritidis*)、ドイツ産プロテインブディングのセレウス菌、エジプト産 (ドイツ経由) 冷凍イチゴのノロウイルス、ポーランド産家禽肉製品のサルモネラ (*S. Bardo*)、イタリア産イガイ (*Mytilus galloprovincialis*) の大腸菌など。

注意喚起情報 (Information Notification for Attention)

ウクライナ産冷凍丸鶏のサルモネラ属菌、ウクライナ産鶏むね肉 (骨・皮なし) のサルモネラ属菌、ポーランド産鶏むね肉のサルモネラ (*S. Typhimurium*)、ポーランド産鶏四分体肉のサルモネラ属菌 (C 群)、フランス産活牡蠣のノロウイルス、ポーランド産鶏もも肉 (骨・皮なし) のサルモネラ (*S. Infantis*, 3/5 検体陽性)、ウクライナ産鶏肉のサルモネラ (*S. Infantis*)、ポーランド産鶏もも肉カツレツのサルモネラ (*S. Infantis*)、ブラジル産冷凍鶏肉のサルモネラ (*S. Heidelberg*)、ポーランド産の生鮮鶏むね肉のサルモネラ (*S. Enteritidis*)、ポーランド産鶏もも肉のサルモネラ (*S. Enteritidis*, *S. Infantis*)、ポーランド産冷蔵鶏肉のサルモネラ (*S. Infantis*, 1/5 検体陽性)、ポーランド産七面鳥肉カツレツのサルモネラ (*S. Trachau*, 25 g 検体 3/5 陽性)、ギリシャ産有機ゴマペーストのサルモネラ、ウクライナ産冷蔵鶏むね肉のサルモネラ (*S. Infantis*)、イタリア産冷凍丸鶏のサルモネラ (*S. Enteritidis*)、ポーランド産鴨肉 (味付き) のサルモネラ (*S. Senftenberg*)、ポーランド産鶏もも肉 (骨・皮なし) のサルモネラ (*S. Enteritidis*, 5/5 検体陽性)、トルコ産ゴマ種子のサルモネラ属菌、ルーマニア産家禽肉のサルモネラ属菌、原産国不明のカット済みマンゴーのサルモネラ属菌 (L 群 (21:i:-)) など。

フォローアップ喚起情報 (Information Notification for follow-up)

ルーマニア産家禽肉のサルモネラ (*S. Bredeney*、*S. Infantis*)、フィンランド産の卵のサルモネラ (*S. Enteritidis*)、ポーランド産家禽肉のサルモネラ (*S. Infantis*)、ブラジル産 (ドイツ経由) 冷凍鶏むね肉のサルモネラ属菌、ブラジル産冷凍鶏肉のサルモネラ属菌 (O21、2/5 検体陽性)、ハンガリー産冷凍鶏もも肉 (骨付き) のサルモネラ属菌、ウクライナ産冷凍鶏むね肉のサルモネラ属菌、ハンガリー産大豆ミールのサルモネラ (*S. Tamberma*)、ウクライナ産冷凍家禽肉製品のサルモネラ (*S. Infantis*) など。

通関拒否通知 (Border Rejection Notification)

ブラジル産冷凍塩漬け鶏むね肉 (半身、骨・皮なし) のサルモネラ属菌、ブラジル産家禽肉製品のサルモネラ属菌、ブラジル産鶏肉のサルモネラ (*S. Typhimurium*)、エクアドル産冷凍養殖エビ (*Penaeus (Litopenaeus) vannamei*) のコレラ菌など。

● アイルランド保健サーベイランスセンター (HPSC Ireland: Health Protection Surveillance Centre, Ireland)

<https://www.hpsc.ie>

アイルランドのコミュニティにおいて繰り返し非常に高水準で流行するノロウイルス (2026 年 3 月)

Norovirus circulating at very high levels in the community

EPI INSIGHT, Vol 27 Issue 2, March 2026

<https://ndsc.newsweaver.ie/4otaa688p3/pjxp6ij18ub8vswyws5958>

主要内容：

- ・ 胃腸炎の主要な原因の一つであるノロウイルスが、2026 年 3 月現在、アイルランドのコミュニティにおいて非常に高水準で流行している。
- ・ 2025/2026 年冬季のノロウイルス感染報告率は予測値を超えて推移しており、特に 2 月初旬以降高水準が続いている。
- ・ ノロウイルスは嘔吐および下痢を引き起こす。感染力が非常に強く、ヒトーヒト間の濃厚接触で容易に拡散される。

2025/2026 年冬季におけるノロウイルス感染患者数

2025 年第 40 週 (10 月初旬) ~2026 年第 10 週 (3 月中旬) の期間において、ノロウイルス感染患者は 1,103 人報告された。2024/2025 年冬季の同期間の報告患者数は 1,097 人

であった。直近の数週間にわたりノロウイルスの報告患者数は「高水準」の週次閾値（49 人以上／週）に達しており、特に直近 10 週のうち 9 週はこの閾値を超えている。報告されたノロウイルス感染患者に関する最新情報は、アイルランド保健サーベイランスセンター（HPSC）が管理する National Notifiable Disease Hub（アイルランド届出義務疾患ハブ）で毎週公表される（以下 Web ページ参照）。

National Notifiable Disease Hub

<https://notifiabledisease.hpsc.ie>

過去 3 シーズンの報告データにもとづいて作成された統計モデルを用いると、2025/2026 年 3 月までの報告件数は 9 週にわたり予測値を超過し、このうち 3 週ではモデルの閾値を上回っていた（図 1）。これは直近数週間の患者報告率が極めて高水準であることを示している。

これに対し、2024/2025 年冬季のウイルス流行期においては、2025 年第 5 週～第 18 週（2025 年 1 月下旬～5 月上旬）に、ノロウイルスの患者報告率が 14 週連続で高水準を維持した。

図 1：アイルランドにおいて 2023 年第 39 週～2026 年第 10 週に報告されたノロウイルス感染患者に関する United4Surveillance シグナル検出ツール(Farrington Flexible モデル)による解析データ



Figure 1. United4Surveillance signal detection tool (Farrington flexible model) for norovirus cases notified in Ireland between week 39 2023 and week 10 2026

アウトブレイク

ノロウイルス感染アウトブレイクの最新情報は、HPSC が管理する National Outbreaks Notification Hub for Ireland（アイルランド全国アウトブレイク報告ハブ）で毎週公開される（以下 Web ページ参照）。2025 年第 40 週～2026 年第 10 週に報告されたノロウイルスおよび急性感染性胃腸炎（AIG: Acute Infectious Gastroenteritis）のアウトブレイクは 167 件であった。2023/2024 年冬季の同時期の件数は 194 件であった。今季のこれまでに報告されたノロウイルスおよび AIG のアウトブレイクの大多数（99%）は医療施設で発生している。

National Outbreaks Notification Hub for Ireland

<https://outbreaks.hpsc.ie>

(食品安全情報 (微生物) No.11 / 2026 (2026.05.27)、No.7 / 2025 (2025.04.02)、No.17 / 2024 (2024.08.21)、No.22 / 2024 (2024.10.30)、No.26 / 2023 (2023.12.20)、No.7 / 2023 (2023.03.29)、No.5 / 2013 (2013.03.06)、No.26 / 2012 (2012.12.26) HPSC Ireland 記事参照)

食品微生物情報

連絡先：安全情報部第二室